

2004年度第4回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2004年(平成16年)10月6日(水) 15:30～16:10

場所：L-911

出席者：計 68名

欠席者：計 40名

配布資料：

A. 当日配布

1. 長期計画の進捗について

(1) 2号館建設に伴う移転計画について

a. 学部・大学院等移転計画(2004年10月6日現在)

b. 事務運営組織(2004年10月6日現在)

c. 教室移行計画(2004年10月6日現在)

(2) 創立100周年記念事業について(2004年10月6日現在)

2. 報告(移転計画/創立100周年記念事業)意見書

3. 長期計画企画拡大会議 委員名簿(2004年10月1日現在)

B. プロジェクト映写資料

1. 『2号館建設に伴う移転計画について』

(1) a. 学部・大学院等移転計画(2004年10月6日現在)

b. 事務運営組織(2004年10月6日現在)

c. 教室移行計画(2004年10月6日現在)

(2) 創立100周年記念事業(2004年10月6日現在)

議 事

議事に先立ち資料の確認があり、長期計画拡大会議委員名簿(2004年10月1日現在)について、大学評議会議員の一部議員の9月末任期終了に伴う委員の変更があるとの補足説明があった。

1. 長期計画の進捗について

2号館建設に伴う移転計画(2004年10月6日現在)と創立100周年記念事業(2004年10月6日現在)について、報告があった。

(1) 2号館建設に伴う移転計画について

a. 学部・大学院等移転計画(2004年10月6日現在)

b. 事務運営組織(2004年10月6日現在)

c. 教室移転計画(2004年10月6日現在)

- 粕谷総務担当理事(フィジカル・プラン等検討専門第2委員会委員長)からの概要説明の後、フィジカル・プラン等検討専門第2委員会事務担当から標記の報告3件朗読があった。

(質疑応答)

Q. 10号館は当初比較文化学部関係で使用するとの話であったが、地下1階、4階は心理学科と共同利用、3階はカウンセリングセンター、コンピュータルームと共同利用、5階、6階が専

用スペースとして割り当てされているが、比較文化学部としてのスペースは足りるのか。

また、比較文化学部の研究室については、新2号館の研究室と同じ広さを確保するとの話であったが、そのことはいかがか。

- A. 比較文化学部に関しては、教室、食堂、会議室等は四谷キャンパスの他の学部と同様に共同利用となる。心理学科と比較文化学部が共同利用する10号館の地下1階および4階の割合は、現時点では未定であるが、3階のコンピュータルームについては、比較文化学部で使える。

研究室については、2室を1室に改修する方向で、不利益にならないよう検討を進めたい。

比較文化学部からのこれまでの提案などに対し、十分に対応できず、コミュニケーション不足であった。現在、案の段階であるので、今後、対話を続ける努力をしていきたい。

- Q. 3階のコンピュータ室を自由に使用できるということは、比較文化学部と心理学科が自由に使えるという意味なのか。

また、大学全体として、学生のコンピュータルームについてはどうなっているのか。

- A. 学生利用のコンピュータルームは、2号館3階にまとめ、端末は550台設置する予定である。10号館3階のコンピュータルームはすべて2号館に移転する。そのスペースは、比較文化学部で自由に使用できる。

比較文化学部のコンピュータシステムは、利用上、四谷キャンパスとは異なる特有のものがあり、必要であれば地下1階に比較文化学部用のコンピュータルームを設置する用意がある。

- Q. 市谷キャンパスの解体後の利用計画はあるのか。

また、解体ではなく教室としての利用計画はないのか。生涯学習施設としてはどうか。

- A. 現在、市谷キャンパスの跡地利用について明確な計画はない。

- Q. ソフィア会の事務局は、移転計画ではどのように考えられているのか。

- A. 現在、ソフィア会事務局と交渉しており、まだ公表する段階に至っていないので、もうしばらくお待ち願いたい。

- Q. 比較文化学部という学部を大学の中でどのように位置づけていくのか、授業料の違いや比較文化学部の固有性などを全体としてどのように考えているか。

- A. グランド・レイアウトにあるように、比較文化学部を四谷キャンパスに移転することの大きな目的は、四谷キャンパスの国際性にある。学生だけでなく、大学全体がより一層世界に向けて羽ばたいていける基盤を作っていきたい。授業料については、ご提案があればお寄せいただきたい。

(2) 創立100周年記念事業について

- 粕谷総務担当理事から、PowerPoint資料(映写)を用いて、創立100周年記念事業について説明があった。
- グランド・レイアウトでは、創立100周年長期計画記念誌編纂委員会を設置するとあるが、記念誌の事例として、記念学術論文集の発行、史資料集の発行、100周年の歩み(仮称)などが考えられる。記念誌を含め、学生のため、教育研究のため、卒業生のために創立100周年記念事業を行う必要があり、企画案を寄せていただきたい。

事務局から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外に、委員から意見があれば、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2004年10月29日(金)までに事務局(創立100周年記念事業推進室)宛て提

出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

2. 次回会議について

次回は、2004年12月1日(水) 15:30から、L-911で行うこととする。

なお、カリー学長及び高祖理事長から、以下の発言があった。

- グランド・レイアウトには50を超える検討課題があるが、積み残しの課題もまだあるようである。各委員会においては、未検討の課題についても精力的に審議していただきたい。

以上